

4 中学校 ～友人の悪口、無視などによるいじめの事例～

中学校3年生のC子は、礼儀正しく、授業態度もまじめであり、落ち着いた学校生活を送っていたが、2学期に入ってから、仲のよかったT子と一緒にいることが少なくなり、休み時間も一人で過ごすことが多くなった。

また、教師の気付かぬ場面で、休み時間に廊下を歩いていると「お前、日つきが悪い」と級友から悪口を言われたり、授業中に発表すると後から「C子はガリ勉のイ子ちゃん」などとからかわれたりするなど、仲間はずれにされる場面も見られるようになった。

C子と仲のよかったT子は、ほかの女子生徒数名と仲よくなり、休み時間になると楽しそうにおしゃべりをするが多くなる一方、それに比例するかのようにC子は元気がなくなり、学校を休むようになってきた。

行動や言動
の変化への
気付き

1 C子の変化

C子は、小学校から欠席はほとんどなく、授業態度もまじめで、どの教科においても意欲的に学習し、学級の係活動も責任をもって最後までやり遂げ、周りの友達から信頼される存在でしたが、中学校3年生の2学期に入ってから、なんとなく元気がなくなり、顔色も悪く、教室に一人でいたり、休んだりすることが多くなりました。

担任の対応
のポイント

★日ごろから、生徒に関心をもって見守り、小さな変化を気にかけている。

児童生徒理
解の方法の
工夫

・受容的、共感的な理解と触れ合い

・生活ノート
の活用

生徒と教師
の心の交流
を深める取
組の継続

2 C子の変化についての理解に努める担任

C子の担任は、C子が気に入り、声かけを行いましたが、「だいじょうぶです」と、いつも明るく振る舞うため、黙って見守っていました。

担任は、生徒一人一人が自己の生活や体験を振り返り、自らの心に留めておきたいことを記録することのできる「生活ノート」を生徒に持たせ、学級活動や道徳の時間などをはじめ、日常的に生徒に自分自身を見つめ、自分の気持ちや考えを書かせては、それに対して感想や返事を書く取組を続けていました。

学校祭が終了した10月半ば、「最近の私」というテーマで、日常生活を振り返って感じていることを書かせると、C子のノートに次のようなことが書かれていました。

★C子の気持ちを受容し、C子の気持ちに寄り添いながら、かわり続けている。

★生徒一人一人の気持ちや考えをきめ細かに把握し、理解を深めるために、生徒が自由に表現できるノートを準備し、教師が返事を書くように努めている。

……最近の私は、みんなが、私をどんな人と思っているのかとても気になります。「目つきが悪くてこわい」とか「ガリ勉」などと言われると悲しい気持ちになります。私がいるだけで、周りの人はいやな思いになるのでしょうか……

—「心のノート」の活用—

◇ 文部科学省が平成14年度に全国のすべての中学生に配布した「心のノート」は、「生活ノート」的な冊子としての特徴も有しており、生徒の心の記録として活用することもできます。

教職員間の
情報の共有
・分析、協
力した指導

担任は、この記述から、C子が周りの生徒に悪口を言われていることに気付き、生徒とのコミュニケーションや教師間の情報交換を密にし、C子の周りにいる生徒の様子も気を付けて見ることにしました。

その結果、C子と仲のよかったT子が、最近、C子と話さなくなり、別のグループの友達と仲よくし、C子の悪口を陰で言っていることが分かってきました。

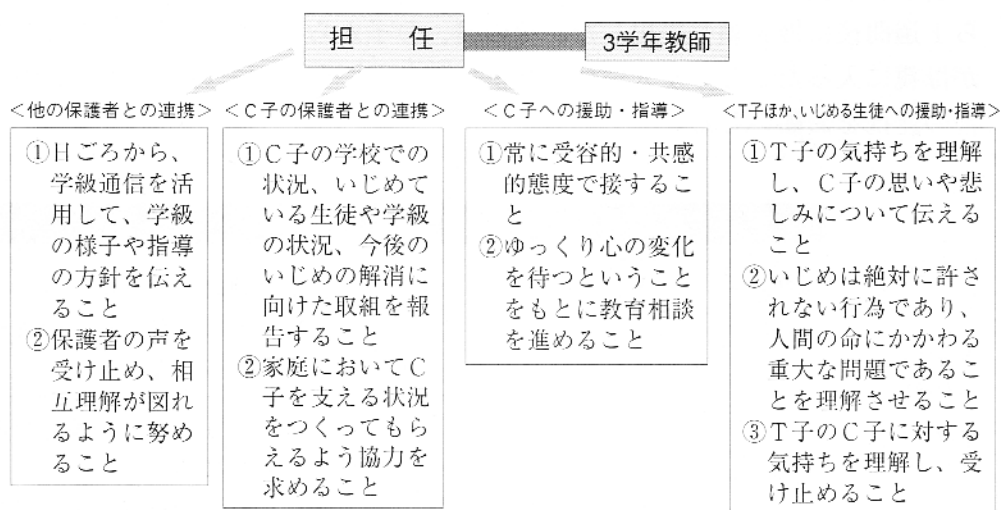
担任は、学年の生徒指導担当の先生に相談し、指導の方針を立てて指導をしていくことにしました。

★C子にかかわる生徒にも目を向け、そのサインの発見に努めようとしている。

★担任が一人で抱え込まず、教職員間で気軽に相談・協力できる校内体制が整っている。

3 生徒指導担当教員との連携による指導の方針の検討

指導方針に
基づく意図
的な援助・
指導



4 指導の実際

学級経営に
おける個別
指導と集団
指導のバラ
ンス

・好ましい人間
関係づくり

時間をかけてC子と教育相談を重ねていくうちに、C子は少しずつ落着き、一番信頼していたT子に無視され悲しかったこと、級友から「目つきが悪い」、「ガリ勉」などと言われたことを自分から語るようになってきました。また、T子とその周りの生徒とも教育相談やグループ相談を通してかかわる時間をもち、何事もよくできるC子に対する嫉妬心から悪口を言っていたことが分かってきました。

担任は、このいじめ問題を契機に、学級内の好ましい人間関係づくりを目指して、構成的グループ・エンカウンターを取り入れるなど、学級づくりにも一層力を入れるようになりました。

■本事例におけるポイント■

C子の前兆行動（サイン）

- 顔色が悪く、元気がない。
- 友人との付き合いが減ってくる。
- 一人でいることが多くなる。
- 欠席が多くなる。

担任の対応

- 生徒の内面にある「不安」や「悲しみ」などの様々な感情や見方、考え方等を受容的、共感的に受け止めた。
- 日常的に、生徒との「生活ノート」のやりとりを継続し、心の交流を図っていた。